

播磨灘広域共同調査（抄録）

（平成21年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業）

住友寿明・酒井基介・平野 匠

本調査は瀬戸内海東部海域において、養殖魚類や貝類の大量斃死を引き起こす*Chattonella*属や*Karenia mikimotoi*等の有害赤潮種及びノリの色落ちを引き起こす珪藻等について、その増殖と環境要因の関係を調査し、赤潮発生機構の解明と有害赤潮モニタリングを効果的に行うための予察技術の確立に資することを目的とする。また瀬戸内海東部海域において、赤潮多発期の夏季及びノリ養殖期の冬季に関係機関で連携のとれた広域共同調査を実施することで、栄養塩濃度、有害赤潮種の動態等を広域かつ経時的に把握し、瀬戸内海東部海域における有害赤潮種の出現特性等を明らかにするものである。

平成21年度における徳島県担当海域（播磨灘南東部）における有害種等の状況について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成21年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 赤潮・貧酸素水塊 漁業被害防止対策事業報告書」を参照されたい。

夏季調査

今季は調査を開始した6月下旬の時点で、すでに*Chattonella antiqua*や*C. marina*が播磨灘北部を中心に出現していた。しかしながら、有害種は7月末以降低密度であった。この原因として*Skeletonema*属や*Chaetoceros*属等の珪藻が優占したこと、7月下旬以降の降雨による表層塩分の低下、鉛直攪拌が無かったことが影響したと考えられる。

冬季調査

今季は11月にまとまった降雨があり、播磨灘南部では12月上旬にDINが上昇したが、以降は降水量の減少により低下した。播磨灘南部では、ノリ色落ち原因種である*Coscinodiscus wailesii*や*Eucampia zodiacus*は低密度であった。

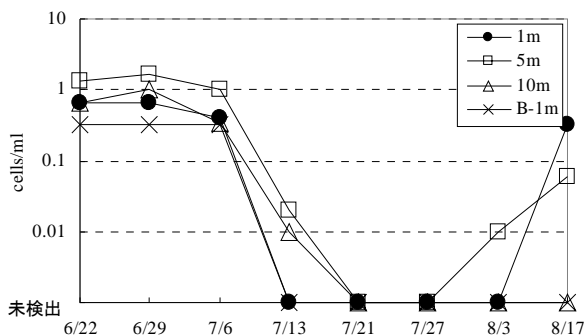


図1．播磨灘南東部における*Chattonella*(*antiqua*+*marina*)細胞数の推移

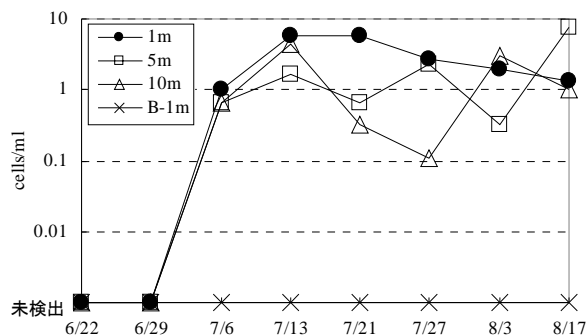


図2．播磨灘南東部における*Karenia mikimotoi*細胞数の推移

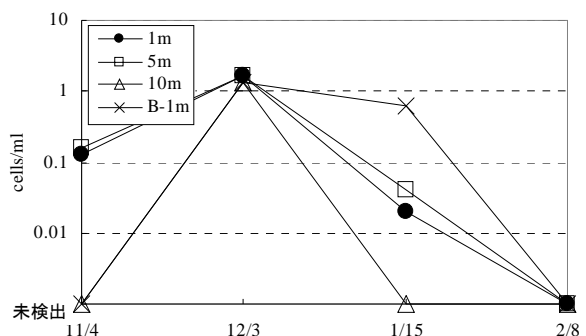


図3．播磨灘南東部における*Eucampia zodiacus*細胞数の推移

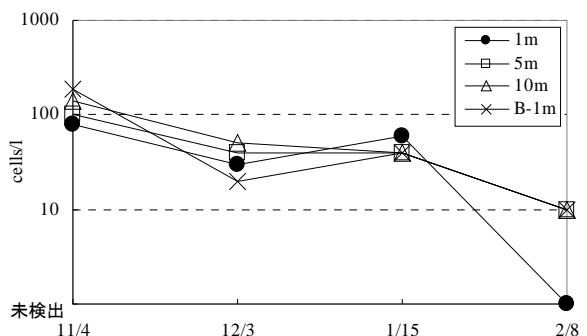


図4．播磨灘南東部における*Coscinodiscus wailesii*細胞数の推移